

シリーズ「脳卒中が怖い理由」

脳卒中は、最近はおもて人の方が多くなりました。
ただ、問題は、
「後遺症が起りやすい病気」ということです。
このシリーズは、厚生労働省 HP「脳卒中ホームページへようこそ」を参考に作成しています。

(その1)「脳卒中ってどんな病気？」

(1) 脳卒中って、簡単にいうとどんな病気？

脳卒中とは、一言でいうと、「脳の血管が詰まったり破れたりする病気」です。

(2) 脳の血管が詰まったり破れたりすると、どうなるの？

脳の血管が詰まったり破れたりすると、その先の細胞に栄養が届かなくなって、細胞が死んでしまいます。

すると、急に倒れて意識がなくなったり、からだの片方のマヒが起きたり、ろれつが回らなくなったりする発作が起きます。急死することもあります。

(3) 脳卒中の「前触れ」があることもある

脳卒中の発作は、突然、ドンと起ることもありますが、一時的に発作が起こってすぐに治ってしまうような「前触れ」が起こることも多いのです。

前触れの例としては、「一時的に手足がしびれる、一時的に物が二重に見える、言葉が少しの間出てこなくなる」などで、少し時間が経てば回復します。

これは脳の血管が一時的に詰まるために起るもので、これに気づくと大きな発作の前に治療をすることもできますが、気付かないことも少なくありません。